

## ■ 全体講評

今回のプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 I の記述式問題は、プロジェクトマネージャとして持つべき基本的な知識や考え方の理解を問う適切な問題だったと思われます。問題の選択はかなり均等化されているようで、難易度の極端な偏りのない出題だったと思われます。最近では本試験でも難問奇問と思えるようなものは、まず出題されることはありません。一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解すれば必ず解答が導ける問題になっています。問題文や設問文にある解答制約を適切に把握すれば、正解へたどりつくことができます。誤答はこの手順に誤りがあった場合、例えば一方的な思い込みや自分自身の特定な経験に対するこだわりなどにより起こりうるもので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実にいえるレベルの表現で解答していくところに神経を使う必要があります。

解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、要求事項や指示に従っていない解答も散見されています。問題文や設問文に書かれている表現は大きなヒントであり、解答の手がかりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるようにしましょう。そこまで限定して言えるのかといったように感じられる強引な解答表現や、色々なことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、正解とならない恐れがあります。注意しましょう。

午後 I 試験では、4 問から 2 問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人がかなりいらっしゃいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示通り確実に問題を選択することを心がけてください。

解答方法の注意点として、とにかく問題文や設問をよく読むことがあげられます。解答のヒントやそのものを書いてある場合がありますので、それを無視した独善的な解答は避けてください。今回は、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られています。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見られています。注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験は詳細なその試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。最後まで、あきらめず必ず合格するという強い意識を持って臨むように

しましょう。

## <午後 I >

### 問1 システム開発プロジェクトの外部委託

#### 【採点基準】

#### [設問1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点。

#### [設問2]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点。

#### [設問3]

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

(2) 法律名は解答例どおりのみ 2 点。

不適切な内容は解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。

#### [設問4]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 6 点。

#### 【講評】

外部委託の業者の選定や契約に関する問題でした。下請代金支払遅延等防止法の知識が問われる設問があり、知識の有無で正答率に差が出た問題と思われます。設問で問われた内容はいずれも頻出の内容と思われますので、よく理解しておく必要があります。

設問 1 の(1)は、要件定義工程の作業の工数の増加やコスト超過を指摘して正解としています。よく見られた解答は「作業が遅延すること」ですが、このことは契約の形態にかかわらず起こりうるもので解答として不適切です。(2)は、「(準)委任契約」の文言をもって正解としています。この観点は試験でよく問われるので注意してください。

設問 2 の(1)は、問題文の記述に沿って解答する必要があります。「成果物の品質低下」のみでは半分の得点としています。(2)は「契約」を交わすことまで言及して正解としています。機密情報の扱いについてのみの解答は半分の得点としています。

設問 3 の(1)は、設問 2 の(1)同様、問題文の記述に沿って解答する必要があります。リスクを解答するので語尾にリスクとつく解答表現が望ましいです。(2)の法律名は、正式名称のみ正解としています。(3)は支払期日が 60 日を越えてはならないということを説明している場

合、正解としました。問題文の状況のみ指摘した解答が多かったですが、法律の内容が不明の場合、誤りとしています。

設問 4 の(1)は、原因が P 社と Q 社にあり、S 社に責任はないことを説明している場合正解としました。どちらか一方の場合は半分の得点としています。(2)は、P 社の外部設計と Q 社の参画を説明している場合正解としました。どちらか一方の場合は半分の得点としています。

## 問2 システム開発プロジェクトの要員育成と管理

### 【採点基準】

#### [設問1]

- (1) 解答例どおりのみ各 4 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 7 点。

#### [設問2]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 7 点。

#### [設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 7 点。

### 【講評】

システム開発プロジェクトでの要員育成と管理に関する問題でした。解答数が比較的少ないので、選択された方が多かったようです。ただし、問題文にしたがってきちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問 1 の(1)は、教育方法の名称を解答する設問でしたが、意外と正答率が低く、特に空欄 a は正答率が低かったです。空欄 b と対で考えれば正答率が上がったように思います。また、「英字で」という指示なのに日本語で解答する場合も散見されていますので注意しましょう。(2)は問題文の記述を参考にして解答します。独善的に解答する場合も散見されていますので注意しましょう。

設問 2 は、該当する段落のストーリーの流れをしっかりと理解することが重要です。これを把握できれば、設問文の意味が理解できて正解することができます。正解できなかった場合、設問の意味合いがピンとこなかったのではないのでしょうか。この設問も独善的な強引な解釈による解答表現が散見されました。

設問 3 は、マネジメント上の施策を解答するものです。(1)は、コミュニケーションの向上に気付いていても、操作系チームの X 氏の施策を踏襲した施策を書いている解答が多かったです。X 氏の施策は属人的であるという記述から、Y 氏は Y 氏のやり方で施策を講じるべきであ

り、X 氏の施策を踏襲したような施策を述べている場合、誤りとなりました。(2)は、インセンティブ褒賞制度が解答のキーとなります。問題文の冒頭部にヒントがある場合も少なくないので、冒頭部に注意するよう心がけてください。

## 問3 EVMによる進捗管理

### 【採点基準】

#### [設問1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点。

#### [設問2]

解答例どおりのみ各 4 点。

#### [設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点。

### 【講評】

EVM, 進捗管理の問題でした。解答数が多いものの、設問 2 が穴埋めで取り組みやすく、選択された方が多かったです。難易度としてはやや易しく、この問題を選択した人は有利だったと思われます。ただし EVM をきちんと理解しておく必要がありますので、苦手な人はよく確認してください。

設問 1 の(1)は、修正が発生した場合の期間がないことが要点です。この点を含んでいて別の観点で解答していると判断した場合、半分の得点としています。(2)は、スケジュールバッファがないことが要点です。(2)もこの点を含んでいて別の観点で解答していると判断した場合、半分の得点としています。(3)は、要員を追加投入してクラッシングを行うことが要点です。要員を追加投入するという解答に対しては半分の得点としています。クラッシングではなくファストトラッキングを解答している場合は誤りとなりました。

設問 2 の穴埋めは比較的平易で正答率は高かったです。そんな中でも(2)の計算問題は相対的に正答率が低かったです。できなかった人は導出方法をよく確認してください。

設問 3 の(1)は、EVM で表される情報の特徴が要点です。この点を含んでいて別の観点で解答している、表現が甘いと判断した場合、半分の得点としています。(2)は解答表現の国語論理が変な解答が見られていますので注意しましょう。(3)は品質の観点の他、進捗の観点で、必要な内容に不足がないかの確認や進捗状況の分析などといった解答も正解としています。

#### 問4 システム開発プロジェクトにおける費用見積り

##### 【採点基準】

##### [設問1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

##### [設問2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。

##### [設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各5点。

##### 【講評】

システム開発プロジェクトにおける見積りに関する問題でした。この問題は設問文の記述が多く、題意や設問要求を理解し適切に解答することが特に求められます。この特徴から、やや難しい問題といえます。相対的に正答率は高くありませんでした。

設問1の(1)は、「顧客」と「インタフェース」が要点でした。この点を含んでいて別の観点で解答している、表現が甘いと判断した場合、半分の得点としています。(2)は、同等の機能を確保するという点で素直に解答すればよいのですが、局所的な解答が多く見られています。(3)も設問文を素直に読んで解答をまとめればよいのですが、局所的な観点で解答する場面が散見されています。

設問2の(1)は、C氏の状況が解答の要点です。それと設問要求とを合わせて解答をまとめる必要があります。これも局所的な解答が目立ちました。(2)は特に難しかったと思います。解答要点を含んでいて別の観点で解答している、表現が甘いと判断した場合、半分の得点としています。

設問3の(1)は、チームリーダーの方ができはよかったように思います。(2)は、内部設計の方ができはよかったように思います。いずれも解答要点を含んでいて別の観点で解答している、表現が甘いと判断した場合、半分の得点としています。

一般的に記述式の解答は、問題文を踏まえて「確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。また、俗っぽい表現や稚拙な表現は避けて、よりプロフェッショナルな表現を心がけてください。そうすることが得点力を高め、解答の実力を養っていくことに

つながります。

以上